

先輩と、後輩と、私と。

第13期 OG 山本 彩理

月日が経つのは早いもので、2017年度も残り数か月となりました。昨年の今頃は、第14期生とともに、このOB・OG会誌の編集作業を行っていたと思うと、なんとも感慨深いものがあります。

2017年の4月から、某メーカーに就職し、大変ありがたいことに、マーケティングの仕事をさせていただいております。職場には慣れてきたものの、自分の仕事を語るほど何かを大きなことを成し遂げてはいないため、仕事については、来年以降のOB・OG会誌でお伝えできればと思います。1つでも多くのことを学び、1日でも早く一人前のマーケターとして活躍できるように、精進する所存です。

大学を卒業して思うことがあります。それは、いかに自分が縦のつながりが強いゼミに所属していたか、ということです。入社前には、社会人のアフター5と言えば、「職場の先輩と飲みに行くのかな?」「面倒くさいおじさんとかいたら嫌だな」と思っていました。しかし、入社してからその予想や心配はまったく見当違いだと気づきました。扱っている商材柄、私の部署には女性が多く、先輩の中にはお子さまがいるため時短勤務をされている方もいらっしゃいます。よって、アフター5に「今夜ちょっと1杯行かないか」などもなく、会社からは直帰する毎日です。「飲みニケーション」は面倒だ、必要ない、と唱える現代の多くの若年層とは違い、ある程度の「飲みニケーション」は、人との距離を縮める良い機会だと考える私としては、そんな職場の雰



マーケターを志す著者
(撮影：第9期 OB 渡邊さん)



圧倒的に American Size のコストコのマフィン

囲気に対し、配属当初は少し寂しく思っていました。しかし今では、別のコミュニケーション方法を考え、(勝手に)毎日午後4時頃におやつタイムを設け、職場の先輩方におやつをおすそ分けする儀式を行い、先輩方からは「食いしん坊、山本山(職場でのあだ名)」として覚えていただいています。先日はコストコのマフィンを割り箸で、デスクで均等に切ろうと試みていたら、その光景があまりにも



吉祥寺のイタリアンにて、第7期 OG 菊盛さんと（著者は右側）

異様だったのか、いつも私の指導をしてくださっている先輩が盛大に笑ってくださいました。今思えば、このおやつ文化も、3年生の英論のグループワークで遅刻のペナルティとして設けられたおやつを振る舞う文化が私の習慣として定着したことがそもそものきっかけだったと考えています。

話はそれでしたが、別の形で楽しい日々を過ごしている職場であるものの、滅多に飲み会が開催されない職場であるため、卒業してもなお、定期的に飲み会に誘ってくださる小野ゼミの先輩方には大変感謝しております。冒頭で懸念していた、「面倒くさいおじさん」に自ら絡まれに行き、時にいじられ、他愛のない話に花を咲かせる小

野ゼミ特有の飲み会は、いつしか、ふとした瞬間に帰りたくなるホームグラウンドのような場所になっていました。三田でお馴染みの大連で、同期の第13期長妻くんの恋愛話に皆で茶々を入れながら、紹興酒を浴びるほど飲むというクレイジーな



先月も同期第13期の長妻さんと三田で浴びるほどお酒を飲んだ著者（中央）



第14期外務の山崎さんと江黒さんの就職内定を祝う会にて（著者は右端）

飲み会がほとんどですが、何か悩んでいるときには、親身になって話を聞いていただき、適切なアドバイスをくださる先輩方を大変尊敬しています。

そのような居心地の良い場所をつくってくださる先輩方がいてくださるからこそ、「今度は私も後輩に」、と思い、後輩たちを食事や飲み会に誘えるようになりたいと思うようになりました。今はまだ自ら誘うほどの勇気がないので、後輩から「サンディさん、さすがにそろそろ会ってください」と言われるまで待ちの姿勢でいますが、今後は後輩たちと会って他愛のない話をする場も大切にしていきたいと思っております。小野ゼミに入る前には想像もしなかった先輩・後輩のつながりの強さを、特に卒業後の約1年で感じている次第です。今はまだ、在学時に大変お世話になった大学院生のつながりもあり、第7期から第12期の先輩方と交流させていただくことがほとんどですが、これからは第1期から第6期の先輩方ともお近づきになることができれば、大変嬉しく思います。2018年は、OB・OG会や小野ゼミのイベント後の飲み会などで皆さまとお話できるのを楽しみにしております。



第13期同期会にて（著者は右側）